会議録

令和7年2月19日提出

会議の名称	西東京市公民館運営審議会 令和6年度第8回定例会
開催日時	令和7年1月22日(水) 18時30分から20時30分まで
開催場所	柳沢公民館 視聴覚室
出席者	委員：西原みどり(会長)、小須田厚子(副会長)、荒井茂、小池教之、下坂小百合、石川健、青木美紀子、ギログリー江美、松本静、荒井容子、高井正 事務局：福所館長、市川事業係長(柳沢)、山本分館長(田無)、根岸分館長(芝久保分館長)、一之瀬分館長(谷戸)、安島分館長(保谷駅前)、星野事業係主任
欠席者	高橋浩一、辻康一、城石雅行
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1 審議事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 令和6年度第6回定例会会議録(案)について(資料1) (2) 令和6年度第7回定例会会議録(案)について 2 主催事業について <ol style="list-style-type: none"> (1) 令和6年度公民館主催事業報告について(資料2) (2) 令和6年度公民館主催事業計画について(資料3) 3 報告事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 行政報告 (2) 公民館だより編集室報告 (3) 東京都公民館連絡協議会委員部会運営委員会報告 4 事務連絡及び情報交換 <ol style="list-style-type: none"> (1) 第61回東京都公民館研究大会について (2) 公民館サポーターの呼びかけについて (3) 西東京市公民館運営審議会ハンドブックの改訂について (4) その他 (5) 令和6年度第9回定例会の開催について
会議資料の名称	【配布資料】 資料1 令和6年度第9回定例会会議録(案) 資料2 令和6年度公民館主催事業報告書 資料3 令和6年度公民館主催事業計画書
記録方法	☐ 全文記録 ☒ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☐ 会議内容の要点記録
傍聴者	☒ あり(1名) ☐ なし
会議内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 審議事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 令和6年度第6回定例会会議録(案)について(資料1) <ul style="list-style-type: none"> ● 令和6年度第6回定例会会議録(案)について承認 (2) 令和6年度第7回定例会会議録(案)について <ul style="list-style-type: none"> ● 令和6年度第7回定例会会議録(案)については、近日中に送付予定。各自内容を確認し、到着後1週間を目途に修正、意見がある場合、事務局に連絡することとする。 2 主催事業について <ol style="list-style-type: none"> (1) 令和6年度公民館主催事業報告について(資料2) <ul style="list-style-type: none"> ○A委員 <ul style="list-style-type: none"> 子育て中の人のための講座(保育付き)「みんなイキイキ自分らしく輝こう～主体性を育む子育てのヒント～」(芝久保)について、備考欄に男性も対象とした公開講座の受講者で講師

が主宰する「パパ育コミュ」に参加した男性がいたとあるが、今後実施する同様の講座でゲストとして招いて話をしていただく機会があるとよいと思う。

「第41回芝久保公民館まつり」（芝久保）に中学生ボランティア19人が参加したとあるが、中学生の感想を把握していたら、紹介していただきたい。

○分館長（芝久保）

個別に感想を聴取していないが、市民と交流できたり、自分が貢献できたと実感したりしたので、ボランティアをしてよかったという感想を多く聞いている。

○A委員

子どもの時に地域の人のお世話になった経験があると、大人になってから地域に戻ってくるという調査結果がある。中学生の頃からの地域の人との交流は大切だと思う。

○B委員

子育て中の人のための講座（芝久保）について、担当の考察・課題欄に「男性向けの公開講座を3年連続して実施したところ、関心が高まり、今回、男女一緒に学ぶ講座を実施した。互いの意見や考えを聞き、新たな気づきの機会となった」とあるが、それが可能になったのはなぜか。

○事業係長

通常の講座は平日に実施したが、公開講座は日曜日に実施した。昨年度から、土・日曜日に開催する講座で保育が実施できるように制度を変更した結果、夫婦そろって講座に参加することが可能になったことが背景にあると思う。

○B委員

日曜日に開催する公開講座に保育をつけることが、夫婦と一緒に受講し、話し合うことを可能にした要因の一つであるならば、それは一つの成果で、土・日曜日開催の講座で保育を行うことの重要性を示していると思う。今後のためにも、このことを公民館で共有していただきたい。

○C委員

土・日曜日実施や短期の連続講座での実施等、保育の在り様に変化していく時期なので、報告書に保育に関する実績や保育の感想をもう少し記載していただきたい。

○D委員

子育て中の人のための講座（芝久保）について、定員15人に対して申込者9人であるのは残念。男女一緒に子育てを行うことが求められる時代に必要な講座だと思うので、今まで出されたことを来年度につないでいていただきたい。また、このような講座を実施していることをアピールし、市民に知らせていていただきたい。先進的な取り組みだと思うので、つないでいていただきたい。

○E委員

子育て中の人のための講座（芝久保）の参加者の評価欄には女性の声が多いが、もう少し男性の率直な感想が掲載されているとよかったと思う。

○D委員

第41回芝久保公民館まつり（芝久保）に私も行ったが、中学生の合唱があり、活気があった。中学生の合唱を聞く機会は、他にはないと思う。今年度から小・中学校全校に地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）が配置されたが、公民館事業の企画段階から地域学校協働活動推進員に相談してもよいのではないかとと思う。

“語りえないもの”を語り継ぐ10フィート映画第二作「予言」上映とトーク（ひばりが丘）について、上映会当日は、ロビーで広島県立基町高校の生徒と被爆体験証言者の共同制作による「原爆の絵」を展示し、準備会参加者が、文化振興課と「非核・平和をすすめる西東京市民の会」共催の講演会を手伝う予定とある。いろいろなひろがりがあると思う。

○A委員

谷戸公民館開館40周年記念事業（谷戸）について、私もシンポジウムの登壇者としてかかわったが、運営スタッフ向けのマニュアルが充実していた。職員が変わる中、事業を引き継いでいくためにも重要だと思う。

○B委員

第41回芝久保公民館まつり（芝久保）について、担当の考察・課題欄に「コロナ前のまつりに戻りつつある」とあり、参加者の評価欄には、「中学生の合唱に…涙しそうになりました」とある。勢いがあると感じた。

多世代交流講座「掘って描いてさつまいも～みんなで収穫&五感でアート～」（芝久保）について、自分で掘って収穫したさつまいもを描く深みがある芸術講座だと思った。

○C委員

教養講座「日本の伝統文化にふれてみよう ザ！和太鼓」（谷戸）について、旧保谷市の文化事業として始まり、33年間活動している「保谷和太鼓会」の演奏を、これからも、年1回、一般の方に聞いてもらえる機会があったらよいと思う。西東京市の伝統としての和太鼓を地道につないでいってほしい。最後の発表会については、近隣の小学校の体育館で、「保谷和太鼓会」とコラボで行ってもよかったのではないかなと思う。

女性のための講座「自分をもっと好きになる～自尊心を育むコミュニケーションのヒント～」（ひばりが丘）について、担当の考察・課題欄に、「講師が複数いる中で2人の講師に講座全体にかかわっていただき、参加者の振り返りを次回に活かした」とあるが、公民館が長年培ってきたことをつないでくれていると感じる。短期の講座で保育を実施するという新しい取り組みが始まったが、柱となる講座があることは、保育に安心感が生まれる。男性の育児参加という課題もあるが、小さい子どもをもつ女性の悩みは今も変わらない。この講座のような育児期の母親を対象とした講座は、今後も継続して行っていただきたい。担当の考察・課題欄に、ある回について「解放した、すっきりした」と「自分を振り返るのが辛かった」に感想が二極化したとあるが、その講師が講座全体にかかわることで、自分を振り返るのが辛いという思いを抱いても、そこから新たな気づきを得ることができるのではないかなと思う。

○F委員

C委員からの保育についてのいくつかの質問と応答を聞いていると、公民館保育は新しい局面にきているということがわかる。しかし、私は、公民館保育の位置づけがあまり理解できていない。一般的には、母親が学ぶために子どもを一時的に預ける手段と考えがちだが、預けることそれ自体が子どもの成長や学びになるということなのかと推察できる。何かの折に、公民館保育について学んだり、意見交換したりする機会を設けていただきたい。一般の方もそれを理解していないと、運営者と利用者のギャップがあるし、保育説明会もハウツー的なものと思いがちだと思う。私自身、しっかり理解したいので、是非、そのような機会を設けていただきたい。

○A委員

今後、保育園は、親が就労しているか否かを問わず、子どもを預かるようになっていく方向性が出されている。そうすると、子どもは毎日、保育園に通っているので、公民館保育室を利用しないということも起きてくるかもしれない。そういうことも踏まえて、いつか、公民館保育について考える機会があるとよいと思う。

○事業係長

これからの公民館保育の在り方について、公民館が考えていることをお伝えし、意見交換する機会を設けたいと思う。

○公民館長

一時的に子どもを預けられる民間の施設もあり、子どもをそこに預けて公民館講座に参加する方もいる。このような公民館保育室を取り巻く状況の変化を踏まえ、就労している保護者の学びを保障するために土・日曜日開催の短期の講座で保育を実施するという新たな取り組みを行う中で、公民館が長年継続してきた公民館保育をどのように存続させていくかを検討する時期にきていると思う。

○B委員

子どもの一時預かりをどう考えるかは、公民館保育では伝統的に争点になっていた。公民館保育の在り方だけでなく、保育そのもの、子どもを預ける重みについての議論になるとよいと思う。

○C委員

公民館保育は、公民館で学んだ女性たちが、下の世代の女性たちの学びを支えようと、子ど

もを預かって彼女たちを学びの場に送り出したことに始まると思う。子どもを預けて学んだ女性たちは、自分のために子どもを犠牲にしているという感覚の背後に、性別役割分業規範の内在化があることに気づいた。他方で、荷物のように子どもを預けるという預け方も見られた。1週間にたった2時間ではあるけれど、子どもを預けて公民館で学んだ母親たちは、保育室での2時間を子どもたちにとっても成長の場にしていきたいと考えるようになった。子どもを預けることを学びにするという理念は、三多摩の公民館で引き継がれてきていると思う。子どもを預ける、預かることを安易に考えずに、たとえ2回の保育であったとしても、子どもたちにとって充実した時間になるように、母親たちが預ける際に子どもたちに何を伝えるか等考えることができるように公民館が取り組むことで、預けることを学びにすることはできると思う。

○B委員

報告書が提出された事業について、全体的に初めて参加した方が多く、幅を広げていると感じた。

○事業係長

平日に行う保育付き講座の参加者がなかなか集まらなくなってきた一方、短期の講座や土日開催の講座の受講者が、他の保育サービスに子どもを預けて参加している状況がある。公運審委員のご意見も伺いながら、これからの公民館保育について考えていきたい。

○C委員

これからの公民館保育について考えるにあたっては、今まで携わってきた保育員のみなさんと一緒に取り組んでいっていただきたい。

○B委員

今から40年ほど前、茅ヶ崎市の公民館で、子ども連れで受講するか、保育を行うか議論になったことがある。内容によっては、親子一緒に学ぶという形もあるかもしれない。このこともふまえて、議論していきたい。

(2) 令和6年度公民館主催事業計画について (資料3)

○C委員

子どもを取り巻く環境について考える講座(保育付き)「なぜわが子はうつむいて登校するのか」(柳沢)について、保育を実施する理由等を教えていただきたい。

○事業係長

前期に実施した地域づくりについて考える講座「なぜ子どもたちはうつむいて登校するのか」(柳沢)にも、子どもをもつ保護者の参加があった。今回は、当事者である小学生の子どもやこの春小学校に入学する子どもがいる保護者を対象としている。就学前の子どももいる方の参加も考えられるので、保育を実施することとした。幼稚園年中・年長の子どもについては、兄弟がいる場合は小学生の子どもと一緒に保育室とは別の部屋をレクリエーション・ルームと位置づけ、預かることを考えている。

○C委員

新一年生の保護者も対象として考えているということだが、これから子どもを入学させる、きらきらした気持ちを抱いている保護者に、「なぜわが子はうつむいて登校するのか」という言葉は響くだろうか。

○E委員

私は、前期の地域づくりを考える講座(柳沢)に参加したが、今、悩んでいる保護者は、4月に変わればという期待をもって、年度末のこの講座に参加するのではないかと考えていた。

○事業係長

公民館だより等の広報で、就学前の子どもがいる保護者にも参加してもらえるよう、工夫している。

○E委員

学校に行きたがらない子どもがいる保護者が受講しようとした場合、学校に行けない子どもが、他の子どもと同じ部屋で過ごすことになる公民館に来てくれるだろうかと思う。公民館に来てくれれば、他者とのかかわる機会になると思うが。

○C委員

受講申込時に、事情を丁寧に伺って、参加できない場合は、後日、講座の内容を伝えることもできるのではないかと。

○B委員

子どもを取り巻く環境について考える講座（柳沢）について、前期の地域づくりを考える講座を受けて実施するということだが、この先も何か生まれてくる企画だと思う。事業報告でも公民館主催講座に参加した小中学生の感想が紹介されてきたが、公民館事業を通じて見えてくる子どもたちの生き生きとした姿、以前、西原会長が話していたPTAが存続できなくなっている現状など、一般論ではなく、西東京市で見えてくる地元の具体的な課題やリアリティと講座をつなげていけるとよいのではないかと。

○D委員

SNSや機器に囲まれている子どもたちが学校に行きたくない、学校がつまらないと感じるのは、ある意味で正解であると思う。親も子も、生身の人間と接することや実体験を経験してほしい。この講座には、いろいろなニーズを持った方が参加すると思う。着地点がどこになるかわからないが、発展途上なので、模索しながら進めていただきたい。

○C委員

保育園までは、子どもの様子が保護者に丁寧に伝えられる。小学校では、それが無い。やがて順応していく子どももいるが、そうではない子どももいると思う。

○G委員

私は教員生活の大半、低学年を担当した。小学校の生活は保育園の生活とガラッと変わる。自由だったのが、枠にはまらなければならない。保育園では、日常、短い時間でも保護者と保育士が言葉をお互いにかかわる。しかし、保護者と教員にはそのような機会はない。タブレットの導入など、教育現場は変わってきているので、こういう機会に話し合えるのはよいと思う。

○B委員

西東京市民映画祭 2025 第 21 回自主制作映画コンペティション最終予選会（柳沢）について、公民館の主催事業から始まったとあるが、どれくらい続いているのか。

○事業係主任

2002 年に谷戸公民館が事務局となり、実行委員会方式で市主催の西東京市誕生一周年記念事業として行われたことに始まる。2 回目からは関係機関の協力を得て市民の力で運営されてきた。コロナ禍で実施できなかった時期があり、今回で 21 回目となる。2017 年開催の第 18 回から最終予選会を西東京市民映画祭実行委員会と柳沢公民館の共催事業として実施している。実行委員会での中心的役割を果たしている西東京シネマ倶楽部は、谷戸公民館の主催講座から発足した谷戸シネマ倶楽部と、谷戸シネマ倶楽部の会員が旧保谷市で立ち上げた保谷シネマクラブが合併して生まれたサークル。2016 年に実行委員会から相談を受け、館内で検討した結果、公民館主催事業としてスタートし市民が育ててきた事業が今後も継続していけるように支援することも公民館の役割であると考え、最終予選会を共催で実施することとした。

○C委員

私がかかわっている「人形劇フェスタ in 西東京」は田無公民館の主催事業としてスタートしたが、行き場を失った時に柳沢公民館に相談した結果、柳沢公民館との共催事業として継続できることになった。市民の力だけでは難しかったと思う。

3 報告事項

(1) 行政報告

○公民館長

12 月定例議会の一般質問の中では、公民館に関する質疑はなかった。12 月 24 日開催の教育委員会定例会も、特に公民館に関する質疑はなかった。

小・中学校の保護者へメールを一斉送信するしくみがあるが、これを利用して、ひばりが丘公民館主催の子ども課題を考える講座「不登校の子どもに寄り添うために～親の役割を考える～」を案内していただいたところ、メールを見た保護者から多数、参加申込があった。事業を選んで、今後も利用させていただけたらと思う。

(2) 公民館だより編集室報告

- 担当委員より、1月20日開催の公民館だより編集会議について報告。2月1日号の特集記事や4月1日号一面特集の取材について紹介した。

(3) 東京都公民館連絡協議会委員部会運営委員会報告

- 担当委員より、11月28日に開催された委員部会運営委員会について報告。10月26日開催の委員部会研修のアンケート結果を紹介した。

4 事務連絡及び情報交換

(1) 第61回東京都公民館研究大会について

日時：令和7年2月8日（土）午後1時15分～4時30分

場所：くにたち市民芸術小ホール

- 出欠を確認

(2) 公民館サポーターの呼びかけについて

(3) 西東京市公民館運営審議会ハンドブックの改訂について

(4) その他

(5) 令和6年度第9回定例会の開催について

日時：令和7年2月19日（水）午後6時30分

場所：柳沢公民館 視聴覚室